

言葉で論理的に思考
言語能力の育成

学校図書館を活用し
学びの基盤である
言語能力・読解力
を向上させる

「すべての学びの基盤」言語メソッド

《言語能力》

「知的活動（論理的思考）」

「感性・情緒」

「伝え合い（コミュニケーション）」

としての言語

の基盤としての言語

の道具としての言語

言葉の力

知的活動

言葉により知的活動が支えられ、深く思考するためには豊かな語彙が必要であり、言葉は、創造性や独創性を生み出す根源である。

感性・情緒

美しい日本語の表現やリズム、文学などの言葉により、深い情感や繊細な感受性など、豊かな感性や情緒が培われている。

伝え合い

コミュニケーション（通じ合い）の基本は、相手の人格や考え方を尊重する態度と言葉による意志や感情などの伝え合いである。

国語力と言語活動

国語力

言語を中心とした情報を処理・操作する能力

その基盤となる領域

「考える力」「感じる力」
「想像する力」「表す力」

「国語の知識」
「教養・価値観・感性等」

言語活動

「聞く」
「話す」
「読む」
「書く」

+

「思考」

- 体験から感じ取ったことを表現する。
- 事実を正確に理解し伝達する。
- 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- 情報を分析・評価し、論述する。
- 課題について、構想を立て実践し、評価改善する。
- 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。



《言語活動の手だて》

- ・ 語彙を豊かにする → 学習指導のあり方を変えていくこと
- ・ 読書活動の推進 → 学校図書館の活性化
- ・ 言語環境の整備 → 活字に親しむ学校づくり（掲示物 etc）
→ 正しい言葉遣い、丁寧な文字 etc

学校図書館から教育を変える 本校の学校図書館が果たす「3つの役割」

学校図書館は、読書を通じた豊かな心の育成とともに、確かな学力の基盤となる重要な役割を担っています。学校図書館が育てる力は「生きる力」に資するものであり、生涯にわたる学習の基盤形成につながるものです。そのため、本校の学校図書館には、次の機能をもたせています。

読書センター

想像力を培い、学習に対する興味関心等呼び起こし、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む自由な読書活動や読書指導の場。

学習センター

子供たちの自発的・主体的・協働的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたり、探究的な学習をする場。

情報センター

多様な学習資料やICT環境で児童や教職員の情報ニーズに対応したり、児童の情報収集・選択・活用能力を育成したりする場。

「学び方を学ぶ学校図書館」の力を活かす

つまり、学校図書館は「本に親しむ場」であるとともに、各教科等の授業における課題解決的な学習、探究的な学習、新聞を活用した学習等を通じて、子供たちの「言語能力、情報活用能力、問題解決能力等の育成を支える場」であり、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤なのです。

興味・関心等に応じて主体的に学習内容の背景を探ったり、学習の到達点を認識したりする。

児童自ら問いを見い出して、解決したり、自己の考えを形成し表現したりする。

推論する力や見通す力などを身に付け、これまで経験したことのない状況にも対応できる。